

○切込接(写真:天守台西石垣)

石材を平らに加工して精緻に積み上げる切込接の技法がみられます。石は、横方向に並んでおり目地がしっかり通る、布積みです。岡山城内で切込接を観察することができる貴重な場所です。この石垣は、宇喜多期に築かれた石垣がせり出してきたため、石垣を補強する目的で、元禄年間に施工されたものです。



○算木積み(写真:小納戸櫓跡石垣)

算木積みは、石垣の隅にあたる部分の両側の面に石材の長辺を交互に積んだものを指します。この技法は16世紀第3四半期頃から現れ、17世紀初めには、長方形に整えた角石を用いることが一般化しました。岡山城でも多くの地点で算木積みがみられます。特に、小納戸櫓跡の石垣や月見櫓の石垣における算木積みが整美です。



○石垣の下部構造

岡山城の石垣の下部構造は様々ですが、1996年に内堀の発掘調査でその一つが明らかになりました。その構造は、石垣を据える前に丸太を組むものです。これを胴木といい、地盤沈下の防止を目的としています。水に浸かっており、松の皮まで良好に残ります。ほかに、花崗岩地山を下部構造として石垣を積む事例などが明らかになっています。

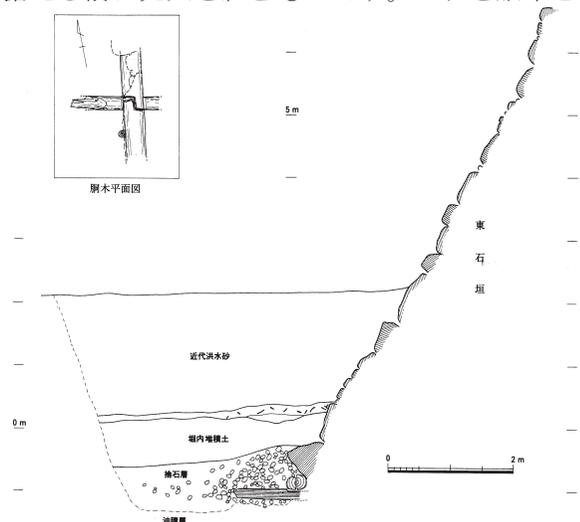


図7 石垣の下部構造(乗岡1998)

＜未来へ繋ぐ石垣 ～石垣の修理～＞

○石垣の修理 文化財行政の取り組み

城の石垣は、築城時に石工らによって精緻かつ丁寧に築き上げられ、今もその姿を見ることができます。しかし、経年劣化や災害が頻発する現況では、必ずしも岡山城の石垣も安全とは言い切れません。他の城に目を向けると、震災で石垣が崩落した熊本城や大雨による影響で石垣が崩落した津山城・丸亀城など崩落事例は散見されます。岡山城においても、一部、石垣がはらんでいる箇所がみられます。こういった状況のなか、石垣を次世代へ未来へと残していくために、文化財保護行政は、石垣カルテの作成や石垣の修理に取り組んでいます。

解体修理の事例を紹介します。下の写真は、現在解体修理工事をしている石垣です。修理の作業としては、解体前の記録をとり、解体順に石垣をラベリングします。解体した石を一石毎に寸法、重量、質などのデータをとります。栗石と土を選別し、下から石を積み上げ、裏込めに再度栗石や土を入れます。積む際は、解体前の記録をもとに積み上げていきます。完成後、修理写真を記録するという手順です。このように、文化財保護行政では、岡山城の解体修理のほか、間詰め作業等を行い、今後も継続し石垣の保存に務めています。



コラム ～災害や空襲の痕跡を示す石垣～

岡山城では、今に至るまでの災害や空襲の痕跡を示す石垣があります。内下馬門の石垣は、巨石に目が行きませんが、その石垣には、プレートが貼られ、昭和9年(1934)の室戸台風による洪水被害の水位が示されます。氾濫の凄まじさが伝わってきます。一方、西の丸の石垣は、石が赤くなっていることが分かります。これは、岡山大空襲で被熱した痕跡であり、空襲の恐ろしさを物語っています。



内下馬門の石垣



西の丸の石垣

<参考文献>

- 太田博太郎 1982 『日本建築史基礎資料集成 15 城郭Ⅱ』中央公論美術出版
- 片山新助 1996 『よみがえる岡山城下町』山陽新聞社
- 米澤貴紀 2015 『日本の名城解剖図鑑』中川武監修 エクスナレッジ
- 渡辺泰多 1993 『写真集 岡山城』出版サービスセンター
- 岡山大学附属図書館(金澤健吾) 2009 『絵図で歩く岡山城下町』吉備人出版
- 中井均2016 『城館調査の手引き』山川出版社
- 奈良文化財研究所2016 『発掘調査のてびき 一各種遺跡調査編一』同成社
- 野中和夫2007 「第三章 伊豆の石丁場 五 特異な大名丁場」『石垣が語る江戸城』同成社
- 乗岡実1997 『史跡岡山城跡本丸中の段発掘調査報告』岡山市教育委員会
- 乗岡実1998 『岡山城内堀』岡山市教育委員会
- 乗岡実2001 『史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告』岡山市教育委員会
- 乗岡実2009 「岡山城跡の石垣」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第1号, 岡山市教育委員会
- 乗岡実2017 「史跡岡山城跡の石垣整備」『第14回全国城跡石垣整備調査研究会』全国城跡石垣整備調査研究会
- 文化庁文化財部記念物課監修2015 『石垣整備のてびき』同成社
- 村川弘行1970 『大阪城の謎』学生社

